グループホームけんとく（認知症対応型共同生活介護事業所）

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評 価 結 果 概 要 表

作成日　21　年　10　月　1　日

［評価実施概要］

事業所番号	1850180025
法人名	医療法人　穂仁会
事業所名	グループホームけんとく
所在地	福井市乾徳4丁目4-18 （電話）　0776-30-5100

評価機関名	社会福祉法人　福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成21年7月31日	評価確定日	平成21年10月1日

［情報提供票より］　（　21　年　6　月　22　日　事業所記入）

(1)組織概要

開設年月日	平成　12　年　5　月　11　日						
ユニット数	3　ユニット	利用定員数計	27　人				
職員数	17　人	常勤	14　人、	非常勤	3　人、	常勤換算	6.0　人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨　造り
	1　階建ての　～　1　階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000（日額2,100円）　円	その他の経費(月額)	実費　円
敷金	有　（　円）　○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有　（　円） ○無	有りの場合 償却の有無	有　/　無
食材料費	朝食　円	昼食	円
	夕食　円	おやつ	円
	または1日当たり　900　円		

(4)利用者の概要

利用者数	27　名	男性	4　名	女性	23　名
要介護1	7	要介護2	12		
要介護3	6	要介護4	2		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均　85.5　歳	最低	76　歳	最高	94　歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大滝病院　大滝外科胃腸科病院　早川歯科医院

［外部評価で確認されたこの事業所の特徴］

当ホームは、福井市の西部に位置し、運営母体の病院・クリニック・介護老人保健施設等が隣接したなかに立地しており、長年、法人全体で地域の医療と介護を担ってきた実績がある。周辺は住宅街であるため静かな環境にあるが、近隣には大学や高校もあり、窓からは学生が元気に通学する風景が見られ、活気が感じられる。
平成12年に1ユニットを開設した後、増設し現在は3ユニットとなっている。3ユニットは廊下続きの平屋で自由に行き来することができ、入居者も違うユニットでお茶を飲んだりして過ごしている。そのため職員は自分のユニットの入居者だけでなく、他のユニットの入居者とも馴染みの関係ができており、勤務形態も日常的に協力しあっているため、申し送りも全職員が3ユニットすべてを聞くようにしている。
また、一人ひとりのできることに着目し、潜在している能力を引き出すケアに取り組んでおり、入居者はホームの暮らしのなかで役割を担っている。職員は、「グループホームの介護は"待つケア"が多く時間はかかるが、少しお手伝いをすることで、入居者ができるようになることを実感でき、うれしくなる」と話しており、グループホームの特性を理解し、日頃から質の高いケアを提供していることが感じられた。

［重点項目への取組状況］

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果で改善点としてあげられた終末期への対応について、職員は真摯に受け止め、勉強会や話し合いを重ね、看取り指針の作成や法人内施設の協力も得た体制整備を行い、実際に重度化した入居者のケアを実践している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価にあたっては、各ユニットの職員間で話し合い、管理者が職員の意見を聞いて、協力しあいながら自己評価表を作成した。さらに昨年の外部評価の結果をもとに課題を話し合い、勉強会を重ねており、サービスの向上に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は奇数月の第4土曜日に民生委員・地域包括支援センター職員・市の介護相談員・家族等に参加してもらい開催している。家族は、順次2～3名ずつ参加してもらうようになっており、ホームに関する理解が深まり参加して良かったという感想が寄せられている。 会議ではホームの運営状況や地域活動への参加に対する意見が交わされており、地域の公園の草取りや公民館活動への参加につながっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	ホームに対する家族の意見や要望等は、面会や介護計画のカンファレンス、運営推進会議の時に確認している。また3か月ごとに「にこやか通信」を発行し、行事での入居者の様子や今後の計画等を伝えている。 今後は、さらに細やかに入居者の日頃の暮らしぶりを伝えるため入居者ごとのお便りを家族へ定期的に送ったり、家族が遠慮なく意見が述べられるように家族会の結成に向けた支援を検討されることも期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議の場で得た情報や意見をもとに、職員と入居者が近くの公園の草取りや公民館活動・神社のどんど焼き・地区の防災訓練に参加している。また、近所の方にホームの畑でとれた作物をおすそ分けしたり、流しそうめんの行事に誘ったりと可能な範囲で交流の機会を持てるよう積極的に働きかけている。

２．評 価 結 果 （詳細）

※ [黄色枠] は、重点項目。

外部評価№	自己評価№	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容（すでに取り組んでいることも含む）
		Ⅰ 理念に基づく運営　1 理念の共有			
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりが地域の中でゆったり、楽しく人間らしく尊厳を大切に生活していく」というグループホームの役割を踏まえた独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、共有スペースに掲示されており、毎朝職員が唱和してから各業務に就いている。新人職員には、理念の意味を理解してもらうように例示を挙げながら説明し、共有を図っている。		
		2 地域との支えあい			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の畑で取れた作物を近所の方におすそ分けしたり、神社のどんど焼きや公民館行事に参加したりしている。また、月1回実施される公園の草取りにも近所の方々と一緒に参加し、交流の機会を広げる努力をしている。		
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価にあたっては、各ユニットの職員間で話し合い、管理者が職員の意見を聞いて、協力しあいながら自己評価表を作成した。さらに昨年の外部評価の結果をもとに課題を話し合い、勉強会を重ねており、サービスの向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、奇数月の第4土曜日に民生委員・市の介護相談員・地域包括支援センター職員・家族2～3名に参加してもらい開催している。会議での意見を参考に、地域活動への参加などに繋げている。参加した家族からはホームへの理解が深まり参加して良かったとの感想も寄せられている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に直接連絡する機会は少ないが、同法人内に地域包括支援センターがあるので、日常的に情報交換などを行い連携している。また、運営推進会議の内容も包括支援センターの職員から市の担当者に報告されている。さらに市の介護相談員も月1回来所し、入居者からの相談や意見を聴くなど連携しており、サービスの質の向上に努めている。		
		4 理念を実践するための体制			
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は面会時や電話・ケアプランのカンファレンス時に口頭で伝えている。また、3か月ごとにホームでの写真・行事報告・職員紹介などを掲載した広報紙「にこやか通信」を家族にも送付し、日々の暮らしぶりを報告している。	○	さらに日々の暮らしぶりを細かく伝えるために、例えば入居者毎に担当職員が個別の便りを作成し家族に定期的に送付するなど、より家族の安心と信頼感を高める取り組みを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見は、意見箱への投書や直接職員が話しを聴き、真摯に対応している。また、運営推進会議に毎回2～3人ずつの家族に交替で出席してもらい、意見や要望をもらうようにしている。	○	さらに家族が遠慮なく意見を述べられるように、家族会の結成に向けた支援を検討されることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を考慮し、法人内の異動は最小限にとどめる配慮がなされている。子育て中の職員のために、法人内に保育施設も整備されており職員の離職率が低く、入居者との馴染みの関係が維持されている。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
		5　人材の育成と支援			
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修手帳を作成し、法人内の内部研修や外部研修の参加状況を人事考課に反映するなど、法人全体で職員の育成を支援する体制となっている。また、ホーム独自でも課題に対しての勉強会を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加しており、一般職員向けのホーム間交流で他の施設の職員を一日受け入れるなど、積極的に同業者との交流を図っている。また、管理者はさまざまな機会で知り合った同業者とも情報交換をし、横のつながりを持つようにしている。		
		II　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたっては家族だけでなく本人にも必ず施設を見学してもらうようにしている。その際に、他の入居者と一緒に過ごしてホームの雰囲気を感じてもらい、本人が納得した上で入居となるように努めている。		
		2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	広報紙「にこやか通信」には、出産した職員と子供との写真が掲載されていたり、職員が出勤時に「ただいま」と言うと入居者が「おかえり」と答えている様子から、職員と入居者との家庭的で温かい関係が窺えた。		
		III　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、これまでの暮らしぶりや好みに関する情報をセンター方式のアセスメントを活用しながら本人・家族等からできる限り聴き取り、本人の全体的な生活の把握に努めている。入居してからも本人との会話や様子から新しい気づきを得ることも多く、その都度、生活の中に取り入れるようにしている。		
		2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各職員は担当の入居者の介護計画立案の段階で本人や家族から意向を確認し、職員間で十分に話し合いを重ねた上で作成している。作成後、本人と家族に丁寧に説明をし同意を得るようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の記録を確認し毎月モニタリングをして、6か月ごとに計画の見直しを行っている。入居者の状態が変化した場合には、その都度見直しが行われている。		
		3　多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の医療機関や介護施設等がホームに隣接しているため、行事などで連携が取れるようになっている。また、入居者の誕生日には職員がマンツーマンで対応し、本人の生まれた場所やお墓参り等に同行するなど、希望に沿った柔軟な支援を行っている。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
		4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診する医療機関は本人と家族の希望をもとに決めており、家族が受診に同行する場合は、日頃の健康状態を口頭や書面で伝えている。また、法人内にも病院・クリニック・認知症専門医療機関があり柔軟な受診支援が行われている。家族アンケートからも医療体制が充実しており安心できるとの声がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年、重度化された方がおり、その方を支援するため、対応指針の作成・法人内の医療機関との連携・夜間の訪問看護の協力など、終末期の支援体制が整備され、ホームで対応できる限界を理解してもらった上での看取りが可能となった。		
		Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　**1　その人らしい暮らしの支援　(1)一人ひとりの尊重**			
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録はプライバシーに配慮し、外部の方の目につかないように慎重に取り扱われている。入居者への接遇に関しても職員間で話し合い、尊厳を損ねることがないよう注意をはらっている。食後の口腔ケアへの誘導もさりげなく丁寧に行われている様子が窺えた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が畑作業を楽しんだり、化粧をしたり、散歩や買い物に出かけるなど、一人ひとりのペースで過ごせるよう体調や本人の希望を確認しながら支援している。		
		(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者もエプロンをつけ、食事の盛付け・配膳・片付けを職員と一緒に行っている。また、畑で取れた野菜を調理して献立に一品添えたり、それを他のユニットにもおすそ分けするなど、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜を除く週2回、入浴することができる。基本的には、ユニットごとに決められた曜日での入浴となるが、希望があれば他の曜日にも対応している。		
		(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は入居者のできることに着目し、掃除・食事の準備、片付け・草取り・畑作業等を生活に取り入れている。また、中庭での食事や花火、ドライブやお花見等、楽しみや気晴らしの支援も行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて、ホーム周辺への散歩や近くのコンビニへの買い物などの支援が行われている。また、馴染みの美容院への送迎なども支援している。		
		(4)安心と安全を支える支援			
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットごとに玄関があるが、それぞれの玄関が入居者が集まる居間から離れており、職員の死角になるため安全上施錠している。入居者が外に出たい様子が見えたら一緒に外へ出て行動を共にしている。	○	ホームでは、これまでも施錠について家族に意見を求めたり、ベルを付けたり、開放する時間帯を設けたりと施錠を常態化させない取組みを行っている。 今後も引き続き、職員・家族で施錠が入居者にもたらす弊害、さらに地域の方にもたらす印象などを勘案した話し合いを期待したい。

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署指導のもと防火訓練を実施している。さらに年1回の地区の防災訓練にも入居者と共に参加したり、運営推進会議で地域の協力体制について話し合われている。また、地震・水害に備え避難マニュアルを作成しており、法人内の他施設との協力体制が整備されている。		
		(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人内の管理栄養士によって栄養バランスを考えたメニューが立てられており、入居者の好みや摂取状況なども栄養会議で話し合いがもたれている。		
		2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
29	81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は平屋で3ユニットが廊下続きで自由に行き来できるようになっている。居間からは庭や花壇の緑が見えるようになっており、明るく季節感が感じられるようになっている。また、イスやソファが設置され、入居者の手作りの作品や行事の写真等が飾られ、居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室洋室で、ベッド・エアコン・洗面所・タンス・椅子などが常設されているが、居室内には、使い慣れた鏡台や仏壇、家族の写真等が思い思いに飾られており、個性がみられる。居室からは中庭に面したベランダに出ることもできる。		

グループホームけんとくＡ棟（認知症対応型共同生活介護事業所）

自　己　評　価　票

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人一人が地域の中でその人らしく暮らしていけるように独自の理念をつくり、毎朝唱和している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現に向けた取り組みが職員の共通の目標として常に意識され、ケアプランにも盛りこんでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	申込時や運営推進会議時などに説明を入れたり、フロア内では誰もがいつでも見れるように掲示してある。		
	2　地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の理髪店に出かけたり、ホーム内の畑で農作物を収穫した際は隣近所へおすそ分けしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会での草むしりや公民館での祭りや交通安全のマスコット作り等に参加し、地元の方との交流に努めている。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じて認知症についての理解を深めていただき、地域の相談窓口となれるよう努力している。	○	地域の認知症サポーターとしての役割を果たせるよう地域包括支援センターや同グループの病院等の協力を得ながら取組み始めている。
	3　理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	玄関開放への取組み、夜間の入浴、地域への認知症に対する理解、家族を交えた行事の実施、家族とのカンファレンスの徹底等について職員全員でミーティングを行い改善に向けて取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活発な意見交換が行われており、話し合いにより出た意見を皆で話し合い、取り入れていくことでサービスの向上に努めている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員と運営推進会議以外の場においても情報交換を行なっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内の勉強会や外部研修により、知識を得ている。また必要性のある方は社会福祉協議会に相談したりしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等で虐待に関する理解を深め、身体拘束委員を中心に虐待防止に取り組んでいる。		
	4　理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	利用契約時や解約時には十分な説明を行い、理解していただけるようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や介護相談員の受入れを行っており、また家人から本人の本音も漏らして頂けるような機会をつくっている。意見や不満を受けたときには必ずカンファレンスを開き、改善に取り組んでいる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	新聞で暮らしぶりをお知らせしたり、6ヶ月ごとにカンファレンスを行い個々に報告する機会を設けている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のなかで意見を伺ったり、苦情相談窓口や意見箱を設置し、意見や苦情を受けた時は早期にカンファレンスを開いて改善するようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定期ミーティングの場において各自の意見や提案を聞く機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	申し送りの時間を利用して職員配置、人数の調整を行なっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動に関してはなるべく最小限となるように配慮するとともに、産休･育休による子育て支援により離職防止に努めている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受講する機会を設けると同時に参加した外部研修については伝達して皆で知識を共有するように努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井市介護サービス事業者連絡会や県のグループホーム協会を通じて同業者との情報交換や勉強会の機会を設けている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年4回の親睦会行事を開催している。また食事会などの機会を設けてストレス軽減となるように配慮している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の報告での聞き取りや年2回の人事考課を実施している。		
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援　**1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	落ち着いて話のできる場所や環境をつくり、本人の希望や求めている事、不安などを聞き受けとめるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には必ず本人とは別に話す機会を設けて家族の求めていることや不安な点について現状を知るようにしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の現状を把握し、ホーム職員だけでなく地域連携室にも連絡し、今後のサービス利用を総合的に判断している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には必ず説明をして見学していただき、しばらくは家族のもとで他の入居者と一緒にティータイムやおやつを食べていただく等、雰囲気に馴染めるような工夫をしている。		
	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として学ぶ立場を忘れずに本人の得意分野を活かしていけるように努めている。	○	一人一人が生きがいを持って生活していけるように更に工夫をしていきたい。

項目番号	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事などの機会を利用し、家族とともに支えていけるように話し合いの場やふれあいの場を設けている。	○	共に支えていくことに消極的な家族に対しても更に働きかけが必要である。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係を把握し、入居することで関係が途切れないように面会に来ていただくように依頼するなどのアプローチに配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が生まれ育った所や馴染みの場所や人との関係が途切れないよう、出向いて楽しめるような機会を設けている。	○	本人の行きたい馴染みの場所（山菜採り）もなるべく希望にそえるように努力している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い人との関係作りや孤立しないようにテーブルの配置や座る場所を考えたり、スタッフがなかに入ってよい関係作りに努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された後にも、お会いした時にはその後の状況を伺ったりお話を聞いたりしている。		
	III　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　**1　一人ひとりの把握**			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに合わせた暮らしぶりが行えるように努めている。困難な場合にはケースカンファレンスにて本人が何を望んでいるかを充分に考えて検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの話し合いによる情報収集とそれらの情報をセンター方式にて把握するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送りの情報や連絡帳をもとに心身の状態や行動パターンなどを把握するようにしている。		
	2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時にはある程度の計画を作成し、その後本人や家族との話し合いにより本人本位の計画となるように心がけて作成している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しを行い、変化に応じて本人、家族らと話し合いのうえ、計画を見直し、作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やプランに基づいた）ケアの内容を毎日、個別記録に記入し、申し送りで情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
	3　多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループ内に病院、診療所、老健施設、及び種々の介護事業所を有することからその時々の要望に対して柔軟な対応を行っている。		
	4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア、消防、教育機関等の協力を得ながら、行事や生活に活かしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向などに応じ、地域の他のケアマネージャーや事業所と相談し、他のサービスを利用していただく体制をとっているが、現在利用している方はいない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	グループ内に地域包括支援センターがあるため、相談等に応じてもらえ、協働しやすい環境にある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を受け入れ、かかりつけ医による適切な医療を提供していただける関係を築いている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	グループ内に隣接して認知症の専門医療機関があり、診断、治療を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日勤帯は看護師が勤務しており、夜勤帯には緊急連絡網によって健康管理や医療的対応を取っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期の入退院にむけて病院との情報交換を密に行っている。		

項目番号	項　　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	できるだけ早い段階において本人や家族やかかりつけ医らと今後の方針等について話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期に対する指針があり、今後に備えて勉強会の開催等も行っている。	○	今後もホーム内での勉強会や外部の研修会等に出席し、看取りに対して備えていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む先のスタッフとの情報交換や本人、家族との話し合いを充分に行い、ダメージやレベル低下を防ぐように努めている。		
	Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　（1）一人ひとりの尊重**			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけに対しては接遇委員会が中心となって取り組んでいる。個人情報に関してはマニュアルによる取り組みを行っている。	○	接遇アンケートの実施やイエローカード等の独自の方法を考え、意識の向上に努めている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	本人の理解力に合わせた説明を行い、本人の思いや希望を大切にした関わりが出来るように支援している。	○	家族とのカンファレンス時に本人が家族にしか漏らさない意見も聞き入れ、入居者の気持ちを充分に理解出来るように努めている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意見を重視して希望に沿った支援を行っているが、訴えが頻回な入居者に対しては充分な対応が行えていない。	○	ボランティアの方の協力を得ながら、業務に余裕を持つことで充分な関わりを持っていきたい。
	（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望する理美容店に送迎をしている。また化粧などは家族の協力を得ながら希望する方には行えるように支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	中庭で食事をすることで雰囲気を変えたり、畑で採れたものを料理したりしている。また時には外食による気分転換を図っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	決められたおやつの他、本人の好むものが楽しめるよう、ホーム内での売店開催や買い物などへ出かけている。また飲み物も冷蔵庫の一部を提供し、楽しめるように支援している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の排泄パターンに合わせておむつを選び、声かけや誘導をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴を実施し、本人の希望に合わせて入浴剤を使用したり、季節に合わせて菖蒲湯･ゆず湯などを行なっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ソファーや畳の間、自室においてその方の生活習慣に合わせた休息がとれるように支援している。また本人持ちの枕や布団にこだわる方にはそれを使っていただいたり、不安なときにはスタッフと一緒に休んだりしている。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴に合わせて買い物、散歩、草むしり、畑仕事、晩酌など楽しめることを支援している。	○	町内の公園清掃等に参加し、地域社会の一員としての張り合いを感じているようである。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の意見を聞きながらお金を所持していただき、買い物などに出かけている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ケアプラン以外にもその日の希望に応じて外出したい方には出かけるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	小旅行など家族とともに出かけられるような計画や支援を行い、またスタッフと個別的に出かける事も少しずつではあるが機会作りを行っている。	○	本人の希望に対し、家族の協力を更に得ることによって今以上に出かけられるように支援していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書などのやりとりが行えるように支援している。電話に関してはいつでも出来る状態であるが、電話機の操作に戸惑いを見せることがあり、その際にはスタッフが介助することもある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居時に家族は勿論の事、馴染みの方についてもいつでも面会に来ていただくように説明とお願いをしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を行い、職員の意識を高め身体拘束委員のもと拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の理解や了解を得ながら開放に向けて取り組んでいる。	○	玄関の開放の時間や頻度を増やしていく努力を今後もしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら昼夜を通して利用者の所在を把握するために見回りを行っている。特に情緒不安定なときには常に接しているように心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫箱やハサミなど一人ひとりの状態に合わせて所持していただいたり、職員管理としたりしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬防止に対しては名前を呼んで確認し、転倒防止に対してはミーティングにより、業務改善や個別対応、リハビリ体操の実施といった防止策に取り組んでいる。	○	事故防止に向けて研修やミーティングを重ねていきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	教育委員会を通じて年1回救急対応の実技訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防火訓練を実施するとともに運営推進会議を通して地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	転倒リスクについてチェツクリストを作成し、家族と定期的に話し合っている。ベッド柵など本人が抑圧感を感じない程度を話し合い、実施している。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化について発見後すぐに病院受診の手配を行うようにしている。また申し送りや連絡帳を利用してスタッフ間での情報の共有を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的等が記載された処方箋をカルテの裏に綴じている。また特別な薬については連絡帳や申し送りにて伝達、注意を図っている。		

項目番号	項　　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便状態を確認して充分な水分補給と運動に取り組んでいる。更に排便困難な方には薬を使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの励行を支援している。ご自身で充分に行なえない方には見守り及び介助を行なっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によってバランスに配慮した食事メニューが作られている。体調不良や嚥下困難者にはお粥に変更したり、摂取しやすいようにしている。また水分量や食事量をチェックしている。	○	体重の増減に注意し、1回／月　体重測定を実施している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種や対応マニュアルを備え付けている。また感染に関する教育も受講している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は使用後、殺菌庫にて管理している。生鮮食料品については毎日、新鮮なものを購入している。		
	2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい看板や花などを植えるなどの工夫をしている。		
81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花を飾ったり月ごとに壁飾りを変えて季節感を出している。		
82	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にベンチやソファーを配置したり、冬にはコタツを用意して思い思いに過ごせるようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた鏡や箪笥や仏壇など本人や家族と相談しながら環境に配慮している。	○	家族にも協力をお願いしているが、お部屋が寂しい場合もあるため担当者と家族との話し合いを深め、環境作りの支援をしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房など、こまめに温度調整につとめている。また換気は1日2回のほか、悪臭にも気をつけている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で手すり、ナースコール、入居者に合わせたトイレや手洗いの高さに配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の自分で出来ることは行っていただき、出来ないことはさりげなくお手伝いをするようにしている。失敗や混乱を防ぐためにもゆっくりと優しく接している。	○	失敗や混乱を防ぐためにもゆっくりと優しく接していくように努めている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭で食事をしたり、畑での野菜作りや花壇、ベランダでのガーデニングを行っている。		

項目番号	項　　目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
	V　サービスの成果に関する項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点･アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

一人ひとりの思いを大切にし、家族を含めた話し合いの時間を充分とるようにしています。日中は看護師が常に配置されており、夜間は緊急連絡網により近隣の介護老人保健施設や訪問看護の看護師が駆けつけることとなっています。またグループ内に病院や精神科クリニックもあるため、医療の面では安心いただける体制となっております。ボランティアの受け入れを積極的に行ったり、地域の活動に積極的に参加することで地域の中での関係作りを行なっています。ホーム内では畑や庭などに花や野菜を植えることなどで自然に触れる機会を多く設け、自分で植えた花や育てた野菜を収穫することで楽しみを持って生活していただけるよう取り組んでいます。高齢になるにつれて下肢筋力が低下傾向となり、転倒に繋がりやすい為、散歩やお使いを始めたり、リハビリ体操に力を入れ転倒防止に努めています。

グループホームけんとくＢ棟（認知症対応型共同生活介護事業所）

自　己　評　価　票

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅰ　理念に基づく運営　　1　理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人一人が地域の中でその人らしく暮らしていけるように独自の理念をつくり、毎朝唱和している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現に向けた取り組みが職員の共通の目標として常に意識され、ケアプランにも盛りこんでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	申込時や運営推進会議時などに説明を入れたり、フロア内では誰もがいつでも見れるように掲示してある。		
	2　地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の理髪店に出かけたり、ホーム内の畑で農作物を収穫した際は隣近所へおすそ分けしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会での草むしりや公民館での祭りや交通安全のマスコット作り等に参加し、地元の方との交流に努めている。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じて認知症についての理解を深めていただき、地域の相談窓口となれるよう努力している。	○	地域の認知症サポーターとしての役割を果たせるよう地域包括支援センターや同グループの病院等の協力を得ながら取組み始めている。
	3　理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	玄関開放への取組み、夜間の入浴、地域への認知症に対する理解、家族を交えた行事の実施、家族とのカンファレンスの徹底等について職員全員でミーティングを行い改善に向けて取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活発な意見交換が行われており、話し合いにより出た意見を皆で話し合い、取り入れていくことでサービスの向上に努めている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員と運営推進会議以外の場においても情報交換を行なっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の方で現在1人、権利擁護事業を活用している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等で虐待に関する理解を深め、身体拘束委員を中心に虐待防止に取り組んでいる。		
	4　理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時や解約時には十分な説明を行い、理解していただけるようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新聞で暮らしぶりをお知らせしたり、6ヶ月ごとにカンファレンスを行い個々に報告する機会を設けている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議のなかで意見を伺ったり、苦情相談窓口や意見箱を設置し、意見や苦情を受けた時は早期にカンファレンスを開いて改善するようにしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のなかで意見を伺ったり、苦情相談窓口や意見箱を設置し、意見や苦情を受けた時は早期にカンファレンスを開いて改善するようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定期ミーティングの場において各自の意見や提案を聞く機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	申し送りの時間を利用して職員配置、人数の調整を行なっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動に関してはなるべく最小限となるように配慮するとともに、産休・育休による子育て支援により離職防止に努めている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5　人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受講する機会を設けると同時に参加した外部研修については伝達して皆で知識を共有するように努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井市介護サービス事業者連絡会や県のグループホーム協会を通じて同業者との情報交換や勉強会の機会を設けている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年4回の親睦会行事を開催している。また食事会などの機会を設けてストレス軽減となるように配慮している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の報告での聞き取りや年2回の人事考課を実施している。		
	II　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	落ち着いて話のできる場所や環境をつくり、本人の希望や求めている事、不安などを聞き受けとめるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には必ず本人とは別に話す機会を設けて家族の求めていることや不安な点について現状を知るようにしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の現状を把握し、ホーム職員だけでなく地域連携室にも連絡し、今後のサービス利用を総合的に判断している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には必ず説明をして見学していただき、しばらくは家族のもとで他の入居者と一緒にティータイムやおやつを食べていただく等、雰囲気に馴染めるような工夫をしている。		
	2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として学ぶ立場を忘れずに本人の得意分野を活かしていけるように努めている。	○	一人一人が生きがいを持って生活していけるように更に工夫をしていきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事などの機会を利用し、家族とともに支えていけるように話し合いの場やふれあいの場を設けている。	○	共に支えていくことに消極的な家族に対しても更に働きかけが必要である。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係を把握し、入居することで関係が途切れないように面会に来ていただくように依頼するなどのアプローチに配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が生まれ育った所や馴染みの場所や人との関係が途切れないよう、出向いて楽しめるような機会を設けている。	○	本人の行きたい馴染みの場所（海）等へ希望に沿える様に努力している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う人同士が同じ作業に取り組むように声かけしている。直接、職員が声かけすることもあるが、利用者を通しての関わりをもてるように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設で会う機会を通じて、情報交換を行なっている。		
	Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　**1　一人ひとりの把握**			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望により晩酌をしているケースもあり、一人ひとりの思いに合わせた暮らしぶりが行えるように努めている。困難な場合にはケースカンファレンスにて本人が何を望んでいるかを充分に考えて検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの話し合いによる情報収集とそれらの情報をセンター方式にて把握するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送りの情報や連絡帳をもとに心身の状態や行動パターンなどを把握するようにしている。		
	2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時にはある程度の計画を作成し、その後本人や家族との話し合いにより本人本位の計画となるように心がけて作成している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しを行い、変化に応じて本人、家族らと話し合いのうえ、計画を見直し、作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やプランに基づいた）ケアの内容を毎日、個別記録に記入し、申し送りで情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
	3　多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループ内に病院、診療所、老健施設、及び種々の介護事業所を有することからその時々の要望に対して柔軟な対応を行っている。		
	4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア、消防、教育機関等の協力を得ながら、行事や生活に活かしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向などに応じ、地域の他のケアマネージャーや事業所と相談し、他のサービスを利用していただく体制をとっているが、現在利用している方はいない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	グループ内に地域包括支援センターがあるため、相談等に応じてもらえ、協働しやすい環境にある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を受け入れ、かかりつけ医による適切な医療を提供していただける関係を築いている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	グループ内に隣接して認知症の専門医療機関があり、診断、治療を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日勤帯は看護師が勤務しており、夜勤帯には緊急連絡網によって健康管理や医療的対応を取っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期の入退院にむけて病院との情報交換を密に行っている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	できるだけ早い段階において本人や家族やかかりつけ医らと今後の方針等について話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期に対する指針があり、今後に備えて勉強会の開催等も行っている。	○	今後もホーム内での勉強会や外部の研修会等に出席し、看取りに対して備えていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む先のスタッフとの情報交換や本人、家族との話し合いを充分に行い、ダメージやレベル低下を防ぐように努めている。		
	Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　**1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重**			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけに対しては接遇委員会が中心となって取り組んでいる。個人情報に関してはマニュアルによる取り組みを行っている。	○	接遇アンケートの実施やイエローカード等の独自の方法を考え、意識の向上に努めている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	本人の理解力に合わせた説明を行い、本人の思いや希望を大切にした関わりが出来るように支援している。	○	家族とのカンファレンス時に本人が家族にしか漏らさない意見も聞き入れ、入居者の気持ちを充分に理解出来るように努めている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意見を重視して希望に沿った支援を行っているが、訴えが頻回な入居者に対しては充分な対応が行えていない。	○	ボランティアの方の協力を得ながら、業務に余裕を持つことで充分な関わりを持っていきたい。
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望する理美容店に送迎をしている。また化粧などは家族の協力を得ながら希望する方には行えるように支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	中庭で食事をすることで雰囲気を変えたり、畑で採れたものを料理したりしている。また時には外食による気分転換を図っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人がお酒を望まれる場合、家族にも協力をいただきながら支援したり、なるべく本人が望まれる嗜好を取り入れるように努力している。		

項目番号	項　　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の排泄パターンに合わせておむつを選び、声かけや誘導をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴を実施し、本人の希望に合わせて入浴剤を使用したり、季節に合わせて菖蒲湯・ゆず湯などを行なっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ソファーや畳の間、自室においてその方の生活習慣に合わせた休息がとれるように支援している。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴に合わせて買い物、散歩、草むしり、畑仕事、晩酌など楽しめることを支援している。	○	町内の公園清掃等に参加し、地域社会の一員としての張り合いを感じているようである。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の意見を聞きながらお金を所持していただき、買い物などに出かけている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ケアプラン以外にもその日の希望に応じて外出したい方には出かけるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	小旅行など家族とともに出かけられるような計画や支援を行い、またスタッフと個別的に出かける事も少しずつではあるが機会作りを行っている。	○	本人の希望に対し、家族の協力を更に得ることによって今以上に出かけられるように支援していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書などのやりとりが行えるように支援している。電話に関してはいつでも出来る状態であるが、電話機の操作に戸惑いを見せることがあり、その際にはスタッフが介助することもある。	○	遠方に離れた娘さんへの手紙等、本人の行えるレベルに合わせ、続けていけるように支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居時に家族は勿論の事、馴染みの方についてもいつでも面会に来ていただくように説明とお願いをしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を行い、職員の意識を高め身体拘束委員のもと拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の理解や了解を得ながら開放に向けて取り組んでいる。	○	玄関の開放の時間や頻度を増やしていく努力を今後もしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら昼夜を通して利用者の所在を把握するために見回りを行っている。特に情緒不安定なときには常に接しているように心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫箱やハサミなど一人ひとりの状態に合わせて所持していただいたり、職員管理としたりしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬防止に対しては名前を呼んで確認し、転倒防止に対してはミーティングにより、業務改善や個別対応、リハビリ体操の実施といった防止策に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	教育委員会を通じて年1回救急対応の実技訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防火訓練を実施するとともに運営推進会議を通して地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	転倒リスクについてチェツクリストを作成し、家族と定期的に話し合っている。ベッド柵など本人が抑圧感を感じない程度を話し合い、実施している。		
	(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化について発見後すぐに病院受診の手配を行うようにしている。また申し送りや連絡帳を利用してスタッフ間での情報の共有を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的等が記載された処方箋をカルテの裏に綴じている。また特別な薬については連絡帳や申し送りにて伝達、注意を図っている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便状態を確認して充分な水分補給と運動に取り組んでいる。更に排便困難な方には薬を使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの励行を支援している。ご自身で充分に行なえない方には見守り及び介助を行なっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によってバランスに配慮した食事メニューが作られている。体調不良や嚥下困難者にはお粥に変更したり、摂取しやすいようにしている。また水分量や食事量をチェックしている。	○	体重の増減に注意し、1回／月　体重測定を実施している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種や対応マニュアルを備え付けている。また感染に関する教育も受講している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は使用後、殺菌庫にて管理している。生鮮食料品については毎日、新鮮なものを購入している。		
	2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい看板や花などを植えるなどの工夫をしている。		
81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花を飾ったり月ごとに壁飾りを変えて季節感を出している。		
82	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にベンチやソファーを配置したり、冬にはコタツを用意して思い思いに過せるようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた鏡や箪笥や仏壇など本人や家族と相談しながら環境に配慮している。	○	家族にも協力をお願いしているが、お部屋が寂しい場合もあるため担当者と家族との話し合いを深め、環境作りの支援をしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房など、こまめに温度調整につとめている。また換気は1日2回のほか、悪臭にも気をつけている。		

項目番号	項　　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で手すり、ナースコール、入居者に合わせたトイレや手洗いの高さに配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の自分で出来ることは行っていただき、出来ないことはさりげなくお手伝いをするようにしている。失敗や混乱を防ぐためにもゆっくりと優しく接している。	○	失敗や混乱を防ぐためにもゆっくりと優しく接していくように努めている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭で食事をしたり、畑での野菜作りや花壇、ベランダでのガーデニングを行っている。		

項目番号	項　　　目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
	V　サービスの成果に関する項目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○　①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○　①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ○　②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ○　②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ○　②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点･アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

一人ひとりの思いを大切にし、家族を含めた話し合いの時間を充分とるようにしています。日中は看護師が常に配置されており、夜間は緊急連絡網により近隣の介護老人保健施設や訪問看護の看護師が駆けつけることとなっています。またグループ内に病院や精神科クリニックもあるため、医療の面では安心いただける体制となっております。ボランティアの受け入れを積極的に行ったり、地域の活動に積極的に参加することで地域の中での関係作りを行なっています。ホーム内では畑や庭などに花や野菜を植えることなどで自然に触れる機会を多く設け、自分で植えた花や育てた野菜を収穫することで楽しみを持って生活していただけるよう取り組んでいます。高齢になるにつれて下肢筋力が低下傾向となり、転倒に繋がりやすい為、散歩やお使いを始めたり、リハビリ体操に力を入れ転倒防止に努めています。

グループホームけんとくＣ棟（認知症対応型共同生活介護事業所）

自　己　評　価　票

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅰ　理念に基づく運営　**1　理念の共有**			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人一人が地域の中でその人らしく暮らしていけるように独自の理念をつくり、毎朝唱和している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現に向けた取り組みが職員の共通の目標として常に意識され、ケアプランにも盛りこんでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	申込時や運営推進会議時などに説明を入れたり、フロア内では誰もがいつでも見れるように掲示してある。		
	2　地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の理髪店に出かけたり、ホーム内の畑で農作物を収穫した際は隣近所へおすそ分けしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会での草むしりや公民館での祭りや交通安全のマスコット作り等に参加し、地元の方との交流に努めている。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に在住の認知症の方に遊びに来ていただいたり、食事を一緒に食べていただいたりしている。	○	地域の認知症サポーターとしての役割を果たせるよう地域包括支援センターや同グループの病院等の協力を得ながら取組み始めている。
	3　理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	玄関開放への取組み、夜間の入浴、地域への認知症に対する理解、家族を交えた行事の実施、家族とのカンファレンスの徹底等について職員全員でミーティングを行い改善に向けて取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活発な意見交換が行われており、話し合いにより出た意見を皆で話し合い、取り入れていくことでサービスの向上に努めている。		

項目番号	項　　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員と運営推進会議以外の場においても情報交換を行なっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業を活用している方が1名いる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等で虐待に関する理解を深め、身体拘束委員を中心に虐待防止に取り組んでいる。		
	4　理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時や解約時には十分な説明を行い、理解していただけるようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や介護相談員の受入れを行っており、また家人から本人の本音も漏らして頂けるような機会をつくっている。意見や不満を受けたときには必ずカンファレンスを開き、改善に取り組んでいる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	新聞で暮らしぶりをお知らせしたり、6ヶ月ごとにカンファレンスを行い個々に報告する機会を設けている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のなかで意見を伺ったり、苦情相談窓口や意見箱を設置し、意見や苦情を受けた時は早期にカンファレンスを開いて改善するようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定期ミーティングの場において各自の意見や提案を聞く機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	申し送りの時間を利用して職員配置、人数の調整を行なっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動に関してはなるべく最小限となるように配慮するとともに、産休・育休による子育て支援により離職防止に努めている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5　人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受講する機会を設けると同時に参加した外部研修については伝達して皆で知識を共有するように努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井市介護サービス事業者連絡会や県のグループホーム協会を通じて同業者との情報交換や勉強会の機会を設けている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年4回の親睦会行事を開催している。また食事会などの機会を設けてストレス軽減となるように配慮している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々の報告での聞き取りや年2回の人事考課を実施している。		
	Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	落ち着いて話のできる場所や環境をつくり、本人の希望や求めている事、不安などを聞き受けとめるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には必ず本人とは別に話す機会を設けて家族の求めていることや不安な点について現状を知るようにしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の現状を把握し、ホーム職員だけでなく地域連携室にも連絡し、今後のサービス利用を総合的に判断している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には必ず説明をして見学していただき、しばらくは家族のもとで他の入居者と一緒にティータイムやおやつを食べていただく等、雰囲気に馴染めるような工夫をしている。		
	2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として学ぶ立場を忘れずに本人の得意分野を活かしていけるように努めている。	○	一人一人が生きがいを持って生活していけるように更に工夫をしていきたい。

項目番号	項　　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事などの機会を利用し、家族とともに支えていけるように話し合いの場やふれあいの場を設けている。	○	共に支えていくことに消極的な家族に対しても更に働きかけが必要である。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係を把握し、入居することで関係が途切れないように面会に来ていただくように依頼するなどのアプローチに配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が生まれ育った所や馴染みの場所や人との関係が途切れないよう、出向いて楽しめるような機会を設けている。	○	本人の行きたい場所（お墓参り）等も希望にそえるよう努力している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	フロアーのテーブル席の場所に気を配ったり、洗い物のメンバーの組み合わせを考えて孤立しないようにしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	時々電話をかけて現状をお聞きしたり、以前からボランティアとして来て頂いた活動を継続して頂いたりしている。		
	Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	**1　一人ひとりの把握**		
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望により晩酌をしているケースもあり、一人ひとりの思いに合わせた暮らしぶりが行えるように努めている。困難な場合にはケースカンファレンスにて本人が何を望んでいるかを充分に考えて検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの話し合いによる情報収集とそれらの情報をセンター方式にて把握するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送りの情報や連絡帳をもとに心身の状態や行動パターンなどを把握するようにしている。		
	2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時にはある程度の計画を作成し、その後本人や家族との話し合いにより本人本位の計画となるように心がけて作成している。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しを行い、変化に応じて本人、家族らと話し合いのうえ、計画を見直し、作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やプランに基づいた) ケアの内容を毎日、個別記録に記入し、申し送りで情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
	3　多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループ内に病院、診療所、老健施設、及び種々の介護事業所を有することからその時々の要望に対して柔軟な対応を行っている。		
	4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア、消防、教育機関等の協力を得ながら、行事や生活に活かしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向などに応じ、地域の他のケアマネージャーや事業所と相談し、他のサービスを利用していただく体制をとっているが、現在利用している方はいない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	グループ内に地域包括支援センターがあるため、相談等に応じてもらえ、協働しやすい環境にある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を受け入れ、かかりつけ医による適切な医療を提供していただける関係を築いている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	グループ内に隣接して認知症の専門医療機関があり、診断、治療を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日勤帯は看護師が勤務しており、夜勤帯には緊急連絡網によって健康管理や医療的対応を取っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期の入退院にむけて病院との情報交換を密に行っている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	できるだけ早い段階において本人や家族やかかりつけ医らと今後の方針等について話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族、医師、訪問看護、ホーム職員らでチームを組み、その都度状態を見ながらカンファレンスを行い、終末期ケアを行っている。	○	今後もホーム内での勉強会や外部の研修会等に出席し、看取りに対して備えていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む先のスタッフとの情報交換や本人、家族との話し合いを充分に行い、ダメージやレベル低下を防ぐように努めている。		
	Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1)一人ひとりの尊重**			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけに対しては接遇委員会が中心となって取り組んでいる。個人情報に関してはマニュアルによる取り組みを行っている。	○	接遇アンケートの実施やイエローカード等の独自の方法を考え、意識の向上に努めている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	本人の理解力に合わせた説明を行い、本人の思いや希望を大切にした関わりが出来るように支援している。	○	家族とのカンファレンス時に本人が家族にしか漏らさない意見も聞き入れ、入居者の気持ちを充分に理解出来るように努めている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急な散髪や外出希望等、本人の意向を重視し、希望に沿った支援を行っている。		
	(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望する理美容店に送迎をしている。また化粧などは家族の協力を得ながら希望する方には行えるように支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	中庭で食事をすることで雰囲気を変えたり、畑で採れたものを料理したりしている。また時には外食による気分転換を図っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ、飲み物、お酒等、本人の嗜好にあわせた支援を行なっている。		

項目番号	項　　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の排泄パターンに合わせておむつを選び、声かけや誘導をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴を実施し、本人の希望に合わせて入浴剤を使用したり、季節に合わせて菖蒲湯・ゆず湯などを行なっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ソファーや畳の間、自室においてその方の生活習慣に合わせた休息がとれるように支援している。また本人持ちの枕や布団にこだわる方にはそれを使っていただいたり、不安なときにはスタッフと一緒に休んだりしている。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴に合わせて買い物、散歩、草むしり、畑仕事、晩酌など楽しめることを支援している。	○	本人の楽しみの他、自分が行う事で誰かの為になっていると思えるような喜びや張り合いを見つけていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の意見を聞きながらお金を所持していただき、買い物などに出かけている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ケアプラン以外にもその日の希望に応じて外出したい方には出かけるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	小旅行など家族とともに出かけられるような計画や支援を行い、またスタッフと個別的に出かける事も少しずつではあるが機会作りを行っている。	○	本人の希望に対し、家族の協力を更に得ることによって今以上に出かけられるように支援していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書などのやりとりが行えるように支援している。電話に関してはいつでも出来る状態であるが、電話機の操作に戸惑いを見せることがあり、その際にはスタッフが介助することもある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居時に家族は勿論の事、馴染みの方についてもいつでも面会に来ていただくように説明とお願いをしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を行い、職員の意識を高め身体拘束委員のもと拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の理解や了解を得ながら開放に向けて取り組んでいる。	○	玄関の開放の時間や頻度を増やしていく努力を今後もしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら昼夜を通して利用者の所在を把握するために見回りを行っている。特に情緒不安定なときには常に接しているように心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫箱やハサミなど一人ひとりの状態に合わせて所持していただいたり、職員管理としたりしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬防止に対しては名前を呼んで確認し、転倒防止に対してはミーティングにより、業務改善や個別対応、リハビリ体操の実施といった防止策に取り組んでいる。	○	転倒や誤薬など事故に関してはヒヤリハットの記録や事故報告書をもとに話し合うことで再発予防に努めている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	教育委員会を通じて年1回救急対応の実技訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防火訓練を実施するとともに運営推進会議を通して地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	転倒リスクについてチェツクリストを作成し、家族と定期的に話し合っている。ベッド柵など本人が抑圧感を感じない程度を話し合い、実施している。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化について発見後すぐに病院受診の手配を行うようにしている。また申し送りや連絡帳を利用してスタッフ間での情報の共有を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的等が記載された処方箋をカルテの裏に綴じている。また特別な薬については連絡帳や申し送りにて伝達、注意を図っている。		

項目番号	項　　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便状態を確認して充分な水分補給と運動に取り組んでいる。更に排便困難な方には薬を使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの励行を支援している。ご自身で充分に行なえない方には見守り及び介助を行なっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によってバランスに配慮した食事メニューが作られている。体調不良や嚥下困難者にはお粥に変更したり、摂取しやすいようにしている。また水分量や食事量をチェックしている。	○	体重の増減に注意し、1回／月　体重測定を実施している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種や対応マニュアルを備え付けている。また感染に関する教育も受講している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は使用後、殺菌庫にて管理している。生鮮食料品については毎日、新鮮なものを購入している。		
	2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい看板や花などを植えるなどの工夫をしている。		
81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花を飾ったり月ごとに壁飾りを変えて季節感を出している。		
82	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にベンチやソファーを配置したり、冬にはコタツを用意して思い思いに過ごせるようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた鏡や箪笥や仏壇など本人や家族と相談しながら環境に配慮している。	○	家族にも協力をお願いしているが、お部屋が寂しい場合もあるため担当者と家族との話し合いを深め、環境作りの支援をしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房など、こまめに温度調整につとめている。また換気は1日2回のほか、悪臭にも気をつけている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で手すり、ナースコール、入居者に合わせたトイレや手洗いの高さに配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の自分で出来ることは行っていただき、出来ないことはさりげなくお手伝いをするようにしている。失敗や混乱を防ぐためにもゆっくりと優しく接している。	○	失敗や混乱を防ぐためにもゆっくりと優しく接していくように努めている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭で食事をしたり、畑での野菜作りや花壇、ベランダでのガーデニングを行っている。		

項目番号	項　　目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
	V　サービスの成果に関する項目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

一人ひとりの思いを大切にし、家族を含めた話し合いの時間を充分とるようにしています。日中は看護師が常に配置されており、夜間は緊急連絡網により近隣の介護老人保健施設や訪問看護の看護師が駆けつけることとなっています。またグループ内に病院や精神科クリニックもあるため、医療の面では安心いただける体制となっております。ボランティアの受け入れを積極的に行ったり、地域の活動に積極的に参加することで地域の中での関係作りを行なっています。ホーム内では畑や庭などに花や野菜を植えることなどで自然に触れる機会を多く設け、自分で植えた花や育てた野菜を収穫することで楽しみを持って生活していただけるよう取り組んでいます。高齢になるにつれて下肢筋力が低下傾向となり、転倒に繋がりやすい為、散歩やお使いを始めたり、リハビリ体操に力を入れ転倒防止に努めています。